

博士課程教育リーディングプログラム 事後評価結果

機 関 名	東京大学	整理番号	K01
プログラム名称	ソーシャル ICT グローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム		
プログラム責任者	石川 正俊	プログラムコーディネーター	國吉 康夫

博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

[総括評価]

計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

[コメント]

リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、東京大学の研究者層の厚さ、産業界・官公庁との太いパイプを生かした体制になっており、評価できる。学外からのプログラム担当者も 30 名を超え、極めて積極的にプログラムに参画しており、Global Creative Leaders (GCL) 育成プログラムへの学外からの期待の高さがうかがえる。GCL としての学生資質を見極めるための 2 段階選抜方式、密着多元的なきめ細かな評価体制、最長 6 か月間の長期の海外インターンシップ制度、グローバルデザインワークショップなどの国際化を意識したプログラム、学生の自発的・主体的な企画プロジェクトの推進等により、着実に GCL の資質を備えた学生が育成されつつある点も評価できる。

修了者の成長とキャリアパスの構築については、ベンチャー起業者、同参画者及び NPO 法人設立者（総計 8 名）など GCL の人材育成方針を反映した人材が育ちつつある点は評価できる。また、GCL ならではの各種受賞や顕著な業績も多数あり、長期の海外インターンシップ、産官からの多数の講義等を契機としたネットワーク構築や OB/OG とのネットワーク構築が進んでいることも評価できる。

事業の定着・発展については、東京大学が構想する「国際卓越大学院」の中で博士課程教育リーディングプログラムが高く評価され、継続されること、GCL プログラム関連ではソーシャル ICT 研究センターが拡充整備されてきた点は評価できる。しかし、GCL プログラムに対する大学本部の人的・財政支援及び関連研究科の自助努力について、一層明確化されることが期待される。GCL プログラムは修了者の社会的な活躍度によって最終評価されるが、このためには最低 10 年のスパンでの継続と修了者の追跡検証が必要である。この間での安定した財政基盤の早期確立、より多様な研究科からのプログラム履修生の確保、PDCA によるプログラムの不断の見直しが期待される。